

# 概算数量設計による配水管布設工事発注方式

## (小規模簡易 DB 方式) の試行実施について

今後増加する老朽化管の対策や大規模地震の対策として、耐震管更新及び管路耐震化を早期に行う必要があり、管路布設の加速化手法として、概算数量設計による配水管布設工事発注方式（以下「小規模簡易 DB 方式」という。）を試行実施するものです。

### 1. 試行期間

令和8年11月から令和11年度末まで

### 2. 導入時期

- ・令和8年9月初旬：「小規模簡易 DB 方式の入札参加意向」に関するアンケートを実施  
※既に対象となる建設工事業者さまにアンケートを実施しております
- ・令和8年9月中頃：簡易 DB 方式の説明資料等を上下水道部ホームページに掲載
- ・令和8年9月末頃：頂いた質問等に対する回答を上下水道部ホームページにて掲載
- ・令和8年10月から11月頃：試行発注を予定

本発注方式についてのお問い合わせについては、和泉市上下水道部ホームページ「ご意見・ご質問はこちらから」よりメールをお願いいたします。

お問い合わせ先

和泉市上下水道部 水道施設室 水道施設整備担当 事業調整グループ

### 【発注本数 予定】

- ・令和8年度 . . . 1 件
- ・令和9年度～令和11年度 . . . 3 件/年

※導入時期、発注本数については変更となる場合もございます

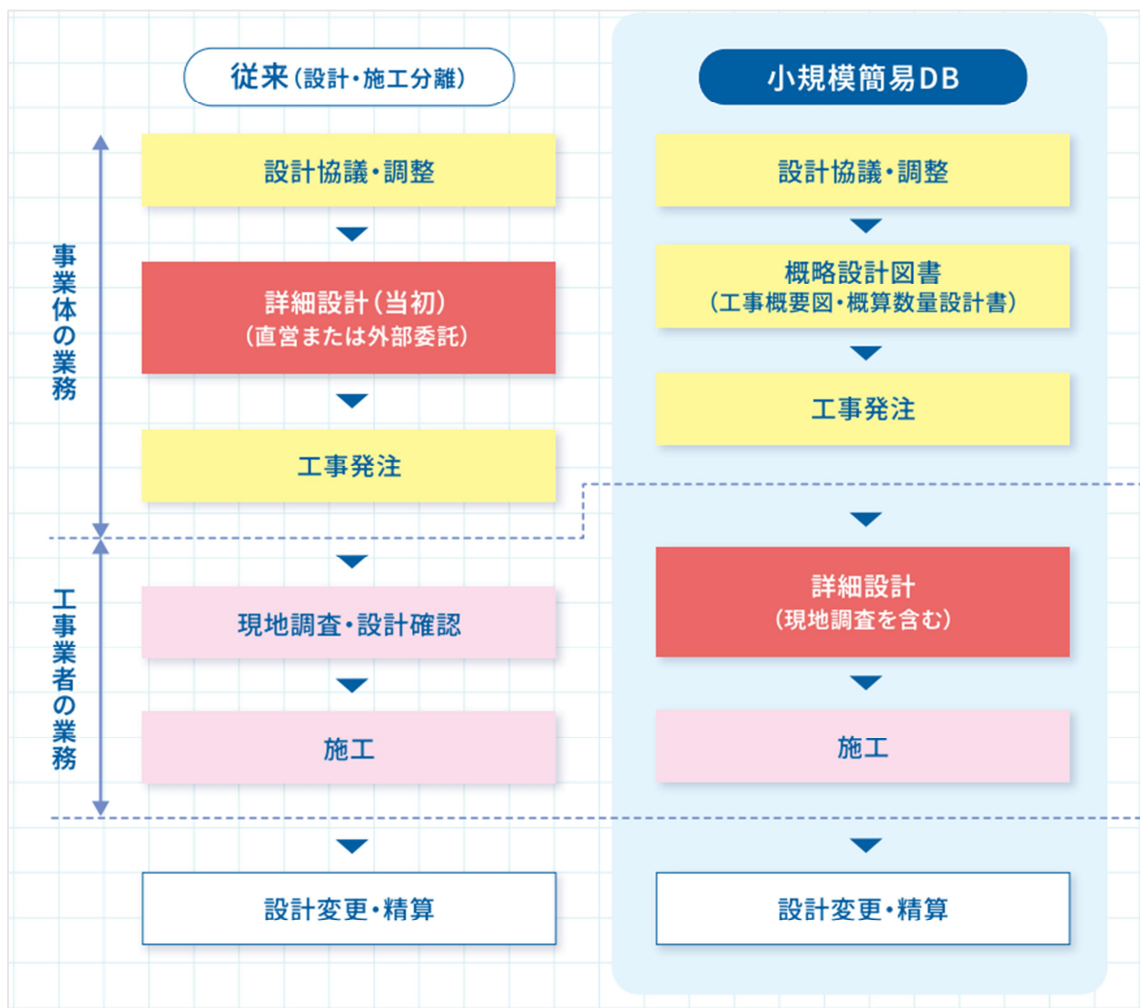
### 3. 小規模簡易 DB 方式とは

配水管布設工事において、これまで発注者が作成していた詳細設計図面等を概略図に変更し、概算数量設計にて積算のうえ発注、契約後に受注者が設計図面等を作成し、発注者の承諾により工事を施工する方式です。

### 4. 業務の主な流れ

工事の発注、契約から施工までの従来の業務の流れと簡易 DB 方式との比較、及び簡易 DB 方式の概要については下図のとおりです。

【従来方式と小規模 DB の発注の流れ】



※1 概算数量設計の内容

- ・ 本管材料・弁栓類：概算数量で計上
- ・ 本管土工：標準断面に基づき計上
- ・ 本管管工：概算材料（本管）にて計上
- ・ 仮設・給水管：包括単価にて計上  
（土工は標準断面に基づき計上）
- ・ 設計費：水道事業実務必携「設計業務委託」にて計上

※2 参考資料として参考図面及び参考設計書（金抜き）を添付

※3 現地調査や試掘結果等を反映して設計図面配管詳細図、給水管施工図・数量総括表等を作成し、発注者の承諾を得る  
数量総括表に基づき、概算工事費を算出した後、発注者の承認を受け変更契約を締結する。

## 5. 期待される効果

簡易 DB 方式の実施に伴い、期待される効果は以下のとおりです。

（発注者側）

- ・ 工事発注のスピードアップにより、更新延長が延びる。

（受注者）

- ・ 例年の発注件数に追加して行うため、受注機会が増加する。
- ・ 詳細設計を行うことで、工事の裁量が増し、材料のロスや労働力のロスが少なくなる。
- ・ 試掘により精度の高い設計図面を作成することができて、施工の自由度を高め、工事施工に係る協議回数が減少する。
- ・ 設計施工を行うことで技術者としてのスキルアップができる。

## 6. 試行発注の対象

令和 8 年度より実施する簡易 DB 方式の試行発注について、下記の条件を工事対象といたします。

- ・ 本方式により工事発注事務を効率的に行うことができる工事であること。
- ・ 現場状況と概算数量設計との大幅な乖離等が生じない工事、また、工事費や工期等に著しい影響を与えない工事であること。
- ・ 水管橋工事や推進工事等といった特殊かつ高度な設計を必要としない工事であること。

- ・ 国等の交付金事業や補助事業に該当しない工事であること。
- ・ 他企業発注の工事と同時または共同して行わない工事であること。
- ・ 支障移転工事等、他企業発注の工事と関連して行わない工事であること。

## 7. 試行発注の実施

- ・ 工事の発注規模は、従来の配水支管（口径 150mm 以下）の布設工事平均施工延長（約 230m）以下を想定しています。
- ・ 試行実施の検証について、事業者様のご協力（アンケート調査を実施予定）をいただきます。
- ・ 検証結果等を踏まえながら、試行発注を重ね、簡易 DB 方式の導入を判断し、本格導入となれば令和 12 年度頃より、各年度の総発注件数のうち、一部を小規模簡易 DB 方式で発注する予定です。
- ・ 入札方法については未定です。